

企業紹介

「はかる」を進化×深化

「はかる」にこだわった価値の提供を続けます



一時を超える羅針盤
金井度量衡株式会社

代表取締役 金井 利郎
〒950-0971 新潟市中央区近江1丁目1番3号
TEL 025-283-8800 FAX 025-283-6100
http://www.kanai.co.jp

業 種：計量機器販売業
資 本 金：3,000万円
事業内容：環境、防災、建設、ポジショニング計測システム、
リモートセンシング、マルチコプターシステム、
販売・レンタル

はかりの製造販売をルーツとする金井度量衡(株)。各種測量機器、計量機器の販売、環境・気象・土木計測器、防災情報機器の設置まで、高い技術力で多くのお客様の「はかる未来価値創造コンサルタント」として貢献し続けている。

時代によって「はかる」ものが変化

ルーツの人、金井助三郎は、明治15年長岡市で升、樽、棒秤、天秤の販売から始め、その後製造も手掛け東京に工場を建設し、商圏を全国に拡大した。しかし、東京大空襲で東京工場は焼失。戦後長岡にもどり、農家向けの秤の取扱いで事業を再開した。事業回復に伴い、助三郎の孫にあたる四郎は現会社を設立し、昭和34年に法人成りし、測量機器や気象観測機器の取扱いも開始。高度成長期の建設ブームに乗り測量機器の取扱が増加。また、県内で水害が頻発したこともあり、気象観測機器の取扱も堅調。現在、この2分野が同社の主力事業となっている。近年GPSなど「はかる」ものは進化しているが、同社では常に最新のものを取り入れ技術力の向上に努めている。



▲ 創業当時の取扱製品



▲ マルチロータ型ヘリコプター
「ミニサーベイヤー」



▲ 「ミニサーベイヤー」のデモフライト

「ミニサーベイヤー」開発の中心的役割を担う

最近、同社が注力するのが、マルチロータ型ヘリコプター「ミニサーベイヤー」の開発販売。一般的には「ドローン」の名称で知られている無人ラジコンヘリで、写真測量、農業、構造物メンテナンス等様々な産業分野での事業化が検討されている。

同社は本技術の第一人者である千葉大の野波教授の開発に初期段階から参加。金井社長は事業化研究会「ミニサーベイヤーコンソーシアム」(200企業団体参加)の副会長も務める。同研究会では、法律的な問題や安全に関するガイドラインを検討し、航空法改正への提言なども行う。同社も、各種セミナーの講師やイベントでのデモンストレーションなど積極的なPR活動で、中心的な役割を果たしている。

経営理念を実践する心構え「長活道」

同社の行動指針は、社長自身が考えた「長活道(ながいきどう)」。

具体的には次の三つの心構えのこと。一つは、好奇心旺盛であること。もう一つは、念(おも)いを理解できること。最後に、行動する勇気があること。この心構えを社員と共に実践していますと語る金井社長。そして、お客様に付加価値を提供していくことが、同社にとっての未来の希望、イノベーションであると位置付けている。

「長活道」を実践していくことで、同社は「はかる未来価値創造コンサルタント」として、顧客に新しい発想の提案を続け、会社の発展を目指している。



▲ イベント会場で「ミニサーベイヤー」をPRする金井社長